

文 化 財 学 習 会

ふ る さ と 探 訪

テーマ 龍満池周辺を歩く

講 師 佐野 通明

平成 2 8 年 3 月 2 0 日（日）

共 催 高 松 市 歴 史 民 俗 協 会
高 松 市 文 化 財 保 護 協 会
高 松 市 教 育 委 員 会

1 龍満池

龍満池（大野池）は、寛永4年（1627）西嶋八兵衛により築かれた。龍満池は、このあたりに湧いていた出水を取り込み、香川町川東上の岩崎にある世中井堰から、香東川の水を導入して造られた。池の周囲は2・7キロメートルほどである。明治初年に川東八幡神社のお旅所が池の中に設けられた。また昭和4年（1929）には仏生山と塩江を結ぶ塩江温泉鉄道が開通し、龍満池の堰堤にガソリンカーの軌道が敷設された。同8年には池の中堤には桜が植えられ、沿線名所のひとつとなった。同42年には竜桜公園となり、桜が堤に植えられ、翌年には讃岐百景にも指定された。同49年には池の南が埋め立てられて川東小学校、香川町役場庁舎（現・高松市役所香川支所、香川図書館）が建設され、さらに同54年には農村環境改善センター（現・川東コミュニティセンター）も整備された。南岸を中心に遊歩道や休憩所などが整備され、訪れる人々の憩いの場となっている。

大野録（寛政3年（1791））には「この池を立満池というのは立満と呼ぶ土地の南にあり、別の名を北田井池というのはこの辺りを北田井と呼んでいたからである」と記されている

【西嶋八兵衛（1596～1680）】



龍満池

西嶋八兵衛は伊勢（三重県）津藩の藤堂高虎に仕えていたが、元和7年（1621）、讃岐国の領主生駒高俊の客臣として讃岐に来る。讃岐では、当時大干ばつや風水害などにより、領内の農政を立て直すことが急務であった。まず領内を検分し、恒久的な治水利水事業の実施を進言し、直ちに事業に着手した。龍満池、小田池、福江大池をはじめとする「ため池修築事業」が見られる。そして、400年以上も壊れたままになっていた満濃池の復興、三谷池の堤防嵩上げなど90余りの池の築造、川の改修工事や高松東部の福岡、木太、春日の新田開発などに尽力のあとが見られる。特に、香東川を流域とする龍満池（大野池といわれていた）、小田池は八兵衛が32歳で取り組んだ讃岐において初めての築造である。

2 池田蕃君紀功碑

池田 蕃（いけだ しげみ）（弘化3年（1846）～昭和6年（1931））は、儒学・医学を修め明治6年（1873）、川東上村で医院を開く。高松公立病院で解剖、病理、薬物学を研究した。その後、県会議員に当選し、5期を努めた。さらに村長も兼務、村政にも尽力した。殖産、企業経営にも力を入れ、稲作においては施肥や深耕法などの改善、ため池に鯉、鮒、うなぎなどを養魚する淡水養魚も振興した。特に、所有の山林を開墾して桃、りんご、梨などを栽培し地域に普及した。県下で初めて岐阜県から富有柿を取り寄せ、今日の柿王国に育てた功績は顕著である。自費で麦稈真田伝習所を設置して普及にあたるなど地域の人々の暮らしに大きい功績を残した。



池田蕃君紀功碑

3 カラト（伽羅土）トンネルと塩江温泉鉄道 「ガソリン道」の標示板

塩江温泉鉄道は、昭和4年（1929）に高松琴平電気鉄道の仏生山駅を起点として営業された。仏生山から塩江までの16.1キロメートル、運転所要時間40分、車賃は40銭であった。仏生山から舟岡・浅野・伽羅土・川東・岩崎・鮎滝・関・安原・中村・岩部の各駅を経て塩江を終点とした。車輛は川崎車輛で製作したガソリンカーで40人乗り、38馬力のエンジンは米国アンドリユース・アンド・ジョージ社製を搭載し、ガソリンカーとしては前進・後進のできる車輛であった。座席はロングシートとつり革があり、その小さな車体は「マッチ箱」と呼ばれていた。

定期便は一両で運行されていたが、団体客や塩江の花火大会、菊人形展、少女歌劇団の演劇など



カラト（伽羅土）トンネル（北側）

乗客の多い時には、臨時便があったという。また春は千本桜、夏は蛍狩、鮎釣、鵜飼、納涼、秋は紅葉狩、キノコ狩り、冬は忘年会、新年会、大滝山のスキーなどと盛んに観光客を誘致していたという。仏生山で琴平電鉄と接続されて高松中心部との交通は大いに開け、中等学校に進学するものが急速に多くなった。しかし、昭和16年に戦争の激化によってガソリン統制が実施されて燃料供給は難しくなり、そのうえレールなどの資材は徴発され全線廃止となった。

現在はトンネルが伽羅土、中村、小矢谷（御殿場）、岩部に、橋梁が関、中村、岩部などに残っている。塩江温泉鉄道跡のトンネルや橋梁などは、香川県近代史を語りかける産業遺産である。

4 自然歩道「四国のみち」

龍満池の東を南に進み、新池の南側に沿って高松市郊外に広がる丘陵地とそこに点在するため池から藤尾神社までの7キロメートルは「水と森をめぐるコース」となっている。一方、西の粉所バス停留所から龍満池まで12.4キロメートルの「丘のみちコース」は、綾南町そして香南町の天福寺、音谷池、大谷池など丘陵地を歩く眺めの良いコースで、ともに美しい香川の風景を代表するものである。

5 川東八幡神社（龍満池とお旅所く油山く）



川東八幡神社

川東八幡神社は龍満池の北側、油山の中腹に鎮座しており、石段を100余段登ると社殿にたどり着く。眼下に龍満池が、南に高松空港や讃岐山脈が展望できる。また、お旅所は長さ300メートルが池に伸び、その両側には桜が植えられている。春は桜花爛漫、四季を通じて鳥居が水に映えて風情がある。

当社は菅原道真が讃岐の国司として各地巡視の折、竜満山の景色がよく神さまを祀る地にふさわしいとして、昌泰2年（899）山城国男山八幡宮から神霊を勧請し、浅野村横岡山に社を建立したのが始まりという。その後、康安2年（1362）守護細川頼之が油山の景色が妙なるを感じ、現在地に移したと伝えられている。居城の岡館に近いところから鎮護神とし、冠纓神社、大野石清水八幡神社を合わせて三社正八幡宮と称したという。

【油山の伝説】

むかし、油山の岩の間から油がちよろちよろと流れ出ていたそう。近くの住民は毎日、夕方になると手に小さな油皿を持って、油山に登って汲み、その油で夜の灯火にしていたという。ところが、寒い夜に毎晩汲みに行くのをやめて、大量の油を汲んで帰ったそう。このようなことが続くようになってから、岩の間からの油が段々少なくなり、そして、とうとう一滴も出なくなってしまったという。

6 新池（ひょうげまつりと矢延平六）

新池は、寛文年間（1661〜73）に藩普請として築造されたものである。新池には、香川町鮎滝の香東川の芦脇井堰から導水され、そして浅野地区、川東地区、三谷町、犬の馬場地区及び仏生山地区の一部を灌漑している。

【新池築造の伝説】

元来、浅野村の土地は高低差がはなはだしく荒廃地が多かった。藩では開墾をさせたが水の便利が悪く灌漑に困ってい



天狗姿で練り歩く人々
（ひょうげ祭り）

た。矢延平六は、大河原某及び篠原某とともに香東川の流れを引いてくることを考え、暗夜に提灯を持った人々を小高い場所から見通し、土地の高低を測定したという。そして、ついに多大の労力を費やして、川内原に新池を築いた。農民の喜びはひとしお大きかったが、ここで一大事が起こった。それは、平六がこの池を築いたのは「高松城を水攻めにするためである」と藩主に告げ口をしたものがおり、それによって平六は裸馬にのせられて、阿波国に追放されてしまったという。平六を慕う農民たちはその行方をもとめたが、捜すことができなかった。せめてそのご恩に報い、これを後世に伝えようと、新池を見下すことのできる高塚山の頂に小さな祠を建てて祀った。これが新池神社である。その祭礼は、農民による純農村的な「ひょうげまつり」として親しまれ、水の恩恵と農作物の実りに感謝して毎年9月の第2日曜日に行われている。付近の住民はもとより、県内外からも大勢の見物者がこの独特の「ひょうげ」を楽しんでいる。祭りは市無形民俗文化財、神具は県有形民俗文化財に指定されている。



新池に入る神輿（ひょうげ祭り）

【仏生山街道く高松から阿波へ至るく】

江戸時代高松藩では、志度街道、長尾街道、仏生山街道、金毘羅街道、丸亀街道の5街道を設けた。仏生山街道は、高松・仏生山・赤坂・鮎滝・安原・塩江・相栗峠や清水峠などを越えて阿波に通じていた重要な道であり、お成道とも言われた。阿波へは讃岐米・塩及び魚介類が、阿波からは薪炭・木地及び藍玉などの交易があり、人々の往来も多く、金毘羅宮や法然寺の参詣道でもあった。途中、赤坂と鮎滝の一本松などに一里塚があったという。道幅は狭く、人々の交通は徒歩・牛馬・かごなどであった。

7 油山の富有柿（香川県で最初の富有柿の原木）

果樹栽培は、明治9年（1876）、池田藩が油山の山麓を開墾し、桃、りんご、梨などを栽培したのが最初である。そして同44年に原産地である岐阜県から富有柿の苗木2本購入し、栽培した。これが香川県における富有柿栽培の発祥である。周辺の丸山と池奥の山林を開墾して栽培面積は広がっていった。現在も富有柿の原木（池田藩が岐阜県から購入したもの）が残されている。

富有柿が栽培されるまでは、碁盤柿、横野、ハッキリ、西条柿などの在来種が農家

の屋敷や畦畔などに散在的に植えられていた。富有柿は明治35年に、岐阜県で発見され、今までに見られなかった最優良品種として当時の農林省園芸試験所長恩田博士によって命名されたものである。現在も香川町や香南町、綾川町などの地域では、地域と気候の適性もあり、甘味が強く、色沢の良い外観の美しい富有柿が生産されている。特に東京市場でも「讃岐香川の富有柿」として日本一の折り紙つきの高値で取引されている。

参考文献

『香川町誌』

平成5年3月 香川町

『香東川とくらしゝ阿讃の山なみから瀬戸の海まで』

平成22年3月31日 香川町文化財保存会

『ふるさとの民話と碑文（香川町の民俗）』

平成3年3月31日 香川町文化財保存会

『大野風土記』

平成22年3月10日 大野風土保存会議

『60年のあゆみ』

昭和45年11月1日 高松琴平電気鉄道

『琴電100年のあゆみゝ讃岐路を走って一世紀多彩な歴史と車両を綴る』

平成24年3月 森 貴知

『文化たかまつ（第44号爽秋号）』

平成18年9月1日 高松市文化協会

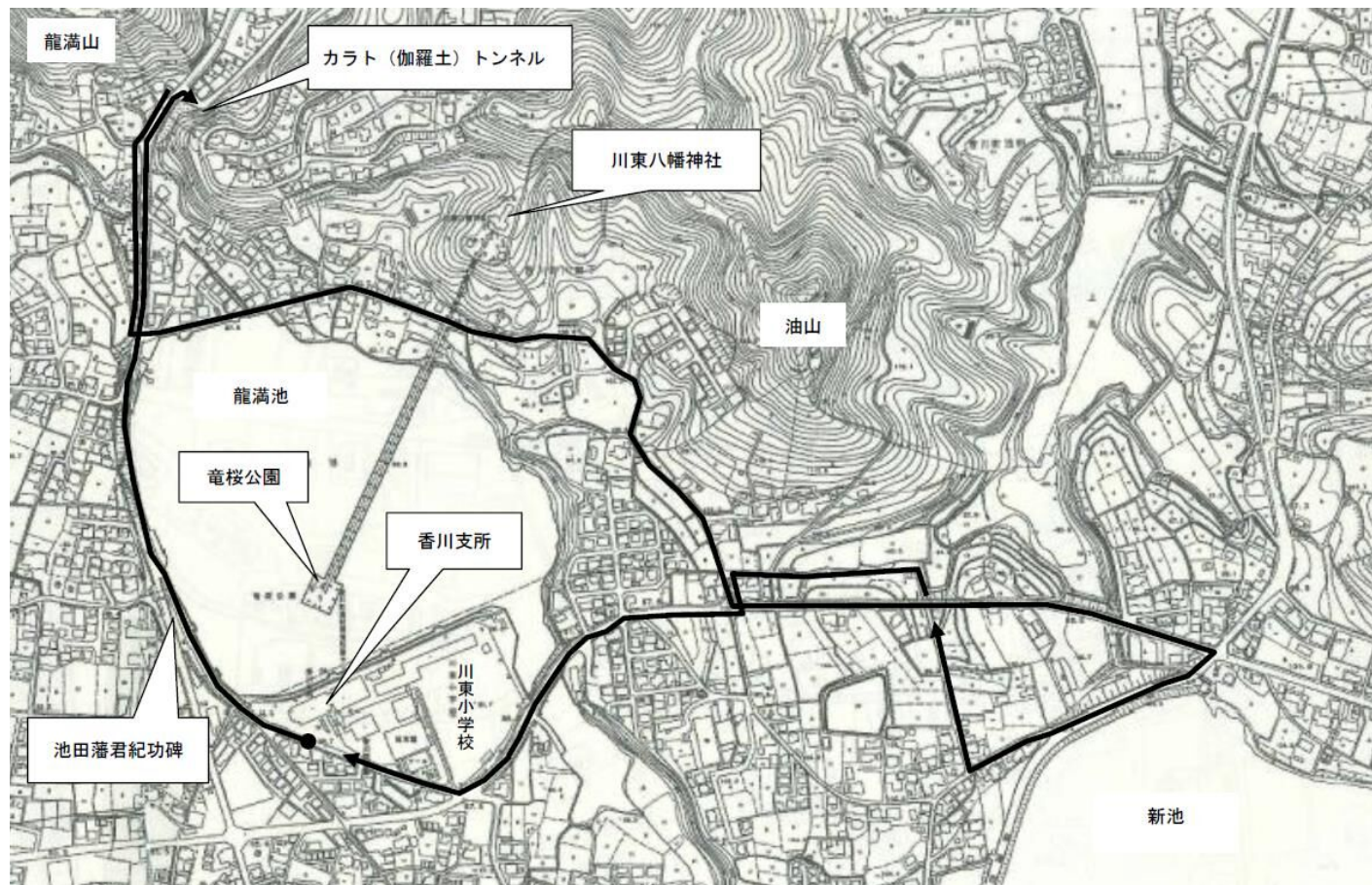
『ひょうげまつり』

平成17年12月1日 香川町文化財保存会

ひょうげ祭り保存会

『香川県の近代化遺産』

平成17年3月 香川県教育委員会



3月20日（日）香川支所からの復路

◆ことでんバス塩江線（上り）

（川東）		（瓦町）		（高松築港）		（高松駅）
11:59	→	12:28	→	12:37	→	12:41
12:49	→	13:18	→	13:27	→	13:31



次回のふるさと探訪は…

テ ー マ 讃岐遍路道 屋島寺道を歩く（予定）

と き 平成28年4月17日（日）

9：30～12：00頃

集合場所 屋島コミュニティセンター

（行事用の駐車場はありません）

講 師 渡邊 誠さん（高松市文化財専門員）

☆公共交通機関を御利用ください。

☆広報「たかまつ」4月1日号に開催案内を掲載します
ので、御覧ください。

☆小雨決行。警報発令等により中止の場合のみ、

文化財課（TEL839-2660「午前7時30分～開始時間まで」）で
お知らせします。（電話が通じない場合は、「実施」です。）

★次回の交通案内★

◆ことでん琴平線下り →乗り換え→ ◆ことでん志度線下り
（高松築港） （瓦町） （瓦町） （湊元）

8:45 → 8:50 <<ホーム移動>> 9:06 → 9:18

>>>湊元駅から北東へ徒歩7分 → 屋島コミュニティセンター

「ふるさと探訪」に 参加される皆様へ

※参加中は、次のことに充分留意し、
意義のある探訪としましょう。



- 1 交通ルールを守り、交通安全を心がけましょう。
(必ず歩道を歩き、歩道が無いところでは、
道路の端を一列で歩きましょう。)
- 2 無理をせず、体調には十分気を付けましょう。
- 3 引率者の指示に従い、整然と行動しましょう。
- 4 マナーを守り、他人に迷惑がかからないよう気を
つけましょう。
- 5 文化財や自然を大切にしましょう。